2023.05.18.　木曜礼拝

嘲る者への答え方

エゼキエル 12 章

主よ、私たちが呼び求める時、あなたは聞いてくださいます。今晩、私たちはあなたを呼び求めます。私たちが過ごすこの時間を見守り、守っていただけませんか？　主よ、私たちがあなたの教えの下に座る時、私たちの心に語ってください。私たちの思考を明瞭にし、体も、心配事も、それが何であっても、主よ、ただ私たちに平安を与えてください。今晩、あなたが語られることを聞くために。あなたの教えに感謝し、あなたの御言葉に感謝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン。アーメン、アーメン。皆さん、こんばんは。お座りください。ようこそ。今夜お越し下さり嬉しいです。オンラインで参加の皆さんも歓迎したいと思います。理由があって、少し早めに始めています。今回お願いしたウォーリーとモラから、ネパールミッションについて話が聞けることをとても楽しみにしています。非常にわくわくします。では、上がって来て下さい。ー拍手ー　これはここに置いておこう。物がごちゃごちゃしてます。私みたいに。ー（笑）ー　それでは、どうぞ。

アロハ。私たちはタナカ・ウォーリーとモラです。ネパールへ短期宣教に行ってきました。この 11 月、私たちがホームチャーチと呼ぶことを誇りに思っているカルバリーチャペルカネオへから祈られ、送り出され、本当に祝福されています。私たちがミッションに参加している間、そして最近では 1 月にも、多くの方が私たちのチームのために忠実に祈ってくださいました。そこで今日は、このネパール医療ミッションがどんなものなのか、モラが少しお伝えします。ネパールはどこでしょう？　ネパールは、エベレストを擁するヒマラヤ山脈の南斜面に位置する美しい国です。ネパールは発展途上国で、平均月収は 200 ドル以下です。かつてはヒンドゥー教の国でしたが、2008 年、世俗国家であることが宣言されました。キリスト教は成長し、繁栄することを許されました。現在、ネパールのキリスト教は、世界で最も急速に発展している国のひとつです。このため、政府のヒンズー教指導者たちは、改宗を違法とし、5 年の懲役刑とする反改宗法を制定しました。私たちのような外国人は、5 年の刑期を終えたら強制送還されます。私は 2002 年からネパール医療宣教に行っており、ウォーリーは 2006 年からです。2002 年の私の目的は、一度踏み出して正義と向き合うことでした。私はその旅ごとに、帰る時、これが最後だと思っていました。少なくとも、私は神にそう伝えました。その後、ネパールには合計 23 回行っています。ー拍手ー　2〜3 週間の宣教旅行なんて、わざわざ行くほどのことでもないだろうと思ってしまいますよね。こんな短い宣教で何の役に立つのか、と思われるかもしれません。そんな短期間に何の役に立つのか？　長年にわたり、私は短期宣教の計り知れない価値を実感してきました。このような宣教に参加するには、すべての計画がいつでも変更される可能性があることを承知で、神にすべての信頼を置くことが必要です。私たちは、家族のように親しくしてくれている、ルーベン・ラナ・マガル牧師が率いるキリスト教会と提携しています。医療施設の場所を決めてもらい、ジープで山道を走り、人里離れた村まで行くこともありました。私たちは、主催者が私たちを危険な目には遭わせないということを、心から信頼しています。宣教チームはこれら 3 つの医療キャンプで基本的な医療を提供し、信者や非信者の大衆を引きつけています。2 つの村で 3〜4 日かけて約 600〜800 人の患者を診ることができます。私たちはキリストの愛をもって接しますが、その中にはイエスを知らない人がたくさんいます。そうすれば、ネパールの提携先が彼らをフォローする道が開けます。私たちは行くたびにキリストの体が成長すると言われています。私たちが提供する医療は、とても基本的なものです。大きな手術はなく、傷の手当や急性症状の治療が多い

です。頭、胃、腕、脚の後ろなどの部位に痛みがあるなどの。また、歯科治療も行っており、抜歯で痛みを和らげることも行います。どんなことでも進んでやるという医療関係者以外の人も、大切なチームメンバーです。歯ブラシ、歯磨き粉、包帯、老眼鏡、かぎ針編みの帽子暖かい衣類などの寄付を持って行きます。来てくれた人はみんなおみやげを持って帰ります。5 世帯にきれいな水を供給する井戸プロジェクトや、1 食分の食事と雌ヤギ 1 匹を家庭に提供し、子ヤギやチーズ用のミルクを生産して販売するヤギプロジェクトに資金を提供しています。だから、この宣教は短いかもしれませんが、とても効果的です。築いてきた人間関係を通して、私たちは、2015 年の大地震に対応することができました。NPO を通した支援は、本当に必要としている人たち、特にクリスチャンに行き渡ることはなかったのですが、彼らの手元に直接支援や資金を届けることができました。長年にわたり、神は資金だけでなく、好意やタイミングも忠実に与えてくださいました。神は、ご自分の子どもたちのために、ご自分の栄光のために、自ら介入され、物事の流れを変えられたことを、ここですべてを語り尽くすことはできません。生活が苦しい国で、貧困と絶望があふれています。迫害は現実のものです。私たちは、救い、癒しの奇跡、霊的な解放、そして神にしかお出来になれない出来事を目撃してきました。例えば、カディガン村で医療キャンプを行う前、クリスチャンはおらず、ブードゥー教の呪術師と黒魔術があるだけでした。今は盛んな教会があります。そこで新しい信者を紹介されました。彼女は、その 2 週間前にイエスを受け入れたばかりでした。彼女は私たちに、自分の家で祈って欲しいと頼みました。彼女が信者になったので、鍋が飛んできたり、窓のシャッターを開け閉めされたりしました。そこで、神のタイミングの一例です。クリニック開業から 1 年、頭の傷から大量に出血している男性が運ばれてきました。ヤックマンと呼ばれる彼は、2 頭のヤクが戦っている間に入り込んでしまいました。彼は、汚れたヤクの角で眉間の額をえぐられていました。深かった傷口を徹底的に洗浄し、縫合することが出来ました。もし、この怪我がその 1 週間前や後に起きていたら、私たちはその場にいなかったでしょう。恐ろしい感染症で亡くなっていたかもしれません。また、その日はクリニックから病院へ戻るのが遅れてしまいました。これも神のタイミングであったと後で知ることになります。この先で、オランダの若い女性が背の高いトラックから投げ出される事故が起きました。彼女の怪我は、肋骨の骨折、耳の裂傷、頭の傷と非常に痛々しいものでした。さて、考えてみてください。このチベット国境近くの人里離れた道路は、何もないところです。ハワイからはるばるやってきた医療チームが、このトラックの後ろの同じ道路を走っているなんて、神にしかお出来になれないことです。予定通り定刻に出発していれば、私たちの知らないところで事故は起きていたはずです。私たちは、彼女の痛みを和らげ、市内の病院への通院を可能にするために、十分な医療を提供することができました。そして、別の宣教で一度だけ、ヒマラヤの麓、チベットとの国境に近い人里離れた村にまたやってきました。チーム内に医師や看護師がいないとはいえ、医療チームという位置づけでした。鼻水や咳の吹き出物など、ちょっとした病気の治療に最善を尽くしました。ビタミン剤、歯磨き粉、歯ブラシを配布し、歯や顔、傷の洗浄を行いました。ある男性は、裂けて化膿し、非常に深刻な傷を負って私たちのところにやってきました。腕の肉が食べられ、骨まで透けていることに気づきました。まるで肉食バクテリアのような事例でした。いずれは切断が必要になるのではと心配しました。3 日間に渡って患部をこすり落とし、抗菌軟膏を塗り、コロイド銀を散布し、何より、彼のために祈り続けました。きれいな水も衛生状態もないまま、薬やきれいな包帯を彼に預けました。予断を許さない状況でした。私たちは、彼がどうなるのかわからないまま帰りました。数ヶ月後、ネパールに戻ったとき、「腕に大きな傷のある男を覚えているか」と聞かれました。何か悪い知らせがあるのではと身構えました。彼は完全に癒され、主を受

け入れたと言われました。本人も家族全員も。ー拍手ー
神がすべてを指揮されたのだと思います。医師や看護師がいないこの医療宣教では、彼らに頼って癒しの奇跡を起こす可能性がないため、わざと私たちを行かせたのでしょう。そうすれば、神こそが癒し主であることを疑う余地もなく知ることができます。また、宣教チームに医療従事者がいることは素晴らしい恵みですが、私たちは、癒し主が誰であるかを常に覚えています。聖書と同じように、遠くから医療キャンプにやってくる人々の行列を確認しました。友達がストレッチャーである人を運んでいました。しかし、屋根から来るのではなく、ドアから連れてきました。男性は黄疸と無気力で、死期が近いように見えました。腎不全と言われました。私たちにできることは、祈ることだけでした。祈った直後、彼は姿勢を正して、ネパール語で話し始めました。ルベン牧師は、「彼はイエスを受け入れたいと言っている」と訳してくれました。そしてその日、イエスは、「友よ、あなたの罪は赦された」と言われました。
世間では偶然と呼ばれるような神の出来事は、まだまだたくさんあります。神は、私たちに力強く扉を開け、栄光を示され、守り、備えを与えてくださったのだと、疑うことなく分かることがたくさんあります。ネパール宣教は誰にでもできるものではありません。私たちはそれを完全に理解しています。限られた休暇の中で、他の観光地に行くよりもネパールで過ごすことを選ぶ人はあまりいないでしょう。空の旅は長く、崖の上にあるガードレールも街灯もない非常に険しい道を走り、川を渡り、慣れない標高の高いところをトレッキングしながら、辺境の村まで 12 時間かかることもあります。豪華なホテルのベッドで眠るのではなく、寝袋で地面に眠ることを選択します。まじめな話、私たちを見てください。神は、その目的が神に従うものであれば、誰でも用いることができます。もしかして、主はあなたを呼んでおられるのでは？　私たちは今、ネパールに行くためのチームを編成しているところです。予定では 11 月 29 日から 12 月 15 日です。定員に限りがあり、飛行機の予約は早めにする必要があります。ご興味のある方はもちろん、もっと知りたいという方も、礼拝後、ロビーでご質問にお答えします。医療宣教は、多くの人々を祝福するために役立っていると断言できます。しかし、私たち以上に祝福されている者はいません。どんなに努力しても、私たちは神を超えることはできません。ネパールの辺境の村の人たちのための宣教なのか、私たちの益のための宣教なのかと思うこともあります。その両方であるという結論に至りました。それが私の言い分であり、こだわりです。ー（笑）ー　ー拍手ー
今彼女に、自分でネタを考えるように言っておきました。ー（笑）ー
完全に私の盗用です。すごい！ですね？　ああ、皆さん、もっと情報が欲しいという方は、聖書の学びの後にお聞きいただけますので、ぜひそうしてみてください。神は何をされるのか、とても楽しみです。
主の御心なら、モラがお話ししたように、11 月から 12 月に限られた人数で行う予定です。祈ってみて、主がどうなさるのか見てください。私が今まで行った宣教旅行は、私の人生を変えたとしか言いようがありません。人生が変わります。大げさではありません。私たちに共有してくれて、本当にありがとうございました。ー拍手ー　奇跡です。想像してみてください。奇跡でしょう？　それでは、引き続きエゼキエル書を通して学んでいきます。先週は、11 章まで終えました。今夜は 12 章を取りあげます。まだ開いておられない方は、どうぞお開きください。この章は、私たちを嘲笑し、あざける者たち、神の預言の御言葉を信じる勇気を持つ者たちに関するもので、実は聖書の中でも最もすばらしいものの 1 つです。これから、神は預言者エゼキエルを預言的なしるしとして用い、神の預言的な裁きの成就を預言的な視覚で説明し、実証しておられます。悲しいことに、この章の終わりには、民はまだ悔い改めることを拒んでいます。エゼキエルにこのようなことをさせておられる愛と忍耐の神からの最後の預言的警告にもかか

わらず、彼らは悔い改めるどころか、嘲り、あざ笑っているのです。なぜでしょう？　神は民が悔い改めることを望んでおられるからです。神の御心は、誰一人滅びることなく、すべての人が悔い改めることです。（Ⅱペテロ　3:9）
神は、長く、忍耐しておられます。今、彼らはおなじみの 2 つの方法で嘲笑っています。その 1 つ目は、「ああ、どの世代も自分の生きている間にあると思っていたんだよ。でも、その幻や予告は、実現しなかった。したがって、それは決して実現しない。」それが一つ目です。今までにも聞いたことがありますね。2 つ目は、仮に実現するとしても、私たちが生きているうちには実現しないということです。
「だから、心配いらない。焦らないでいい。そうなる前に、そうなるとしても、時間はたっぷりある。」それが、これから見ていくことであり、彼らが嘲笑う、2 つの方法です。ネタバレですが、何も変わっていません。
日の下に新しいものはありません。（伝道者　1:9）
あ、ちょっとパッケージが違うかもしれませんが、同じようにあざ笑っています。さて、エゼキエルは、彼らが嘲る預言を具体的な方法で視覚的に表現しており、その結果、嘲る者たちに答えるための 2 つの方法が用意されているのが実に興味深いところです。では、準備はいいですか？　やりましょう。1 節。
ーエゼキエル　12:1ー
次のような主のことばが私にあった。
ーエゼキエル　12:2ー
「人の子よ。あなたは反逆の家の中に住んでいる。彼らは見る目があるのに見ず、聞く耳があるのに聞こうとしない。彼らが反逆の家だからである。
ーエゼキエル　12:3ー
人の子よ。あなたは捕囚のための荷物を整え、彼らが見ている前で、昼のうちに移れ。彼らの見ている前で、今いる場所からほかの場所へ移れ。もしかしたら、彼らに自分たちが反逆の家であることが分かるかもしれない。
さて、今何が起こっているのか理解するために、簡単な背景を説明しますと、今、エゼキエルはバビロンに戻りました。彼は超自然的な領域で、8 章から 11 章までエルサレムの神殿に移されました。エルサレムで、エルサレムに対し、神殿で、神殿に対し何が起こるかについて、これらの幻を与えられました。すなわち、その滅亡が迫っているということです。それで今度は 11 章の終わりで、既にバビロンに捕囚されているところへ連れ戻されます。しかし、問題は、バビロンには無数の偽預言者がいて、エゼキエルやエレミヤの預言とは正反対のことを言っていることです。
「いや、そんなこと起こらない。だから、ここバビロンではあまり落ち着かないように。もうすぐ家に帰れる。エレミヤに耳を傾けるな。エゼキエルに耳を傾けるな。ついでにダニエルの話も聞くな。私たちは帰るんだ。ここに長くいることはない。これは、ある意味、偶然の出来事だったんだ。ええ、2 度起こったことは分かっているが、でも、もう一度起こることはない。」
待って、それは本当に論理的です。しかし、エレミヤの預言は起こります。エゼキエルの預言は起こります。だから今、神は彼らの注意を引くために、このようなことをせねばなりません。エレミヤのような視覚的な預言の目的は、好奇心を抱かせることだったからです。説教や預言や宣教や警告やラッパを鳴らすこと以上に。言葉はありません。「今、エゼキエルは何をしているんだ？　捕虜になったかのような行動をしている。すでに捕らわれているのに、その様子を私たちに見せるためにやっている。どうなってい

るんだ？」おお、効果がありました。効果がありました。
ーエゼキエル　12:4ー
あなたは、昼のうちに彼らが見ている前で、自分の荷物を捕囚のときの荷物のようにして持ち出せ。そして、捕囚に行く人々のように、彼らの見ている前で夕方出て行け。
ーエゼキエル　12:5ー
彼らの見ている前で壁に穴を開け、…
本当にするんですか、主よ？
…そこから荷物を運び出せ。
というのも、これはまさに捕囚されたときに彼らがしたことだからです。彼らは逃げようとしました。荷物を持っていました。私たちの時代では、緊急時に備えて、基本的な生活必需品をすべて入れた持ち出しバッグのようなものでしょうか。まあ、こういうことが起こることを見越してのことでしょう。ここで神はエゼキエルに言っておられます。
「このバックをまとめ、壁に穴を掘って欲しい。このように演じて、ドラマチックに表現してほしいのですが、あなたはすべての荷物を入れたバッグを持って、彼らの目の前で、穴から逃げるのです。昼も夜も彼らの見えるところでやってください。あなたがやっているところを彼らに見て欲しいからです。」
では、6 節。
ーエゼキエル　12:6ー
彼らの見ている前で、…（彼らの見ている前だという印象を受けますね？）**…あなたは荷物を肩に担ぎ、暗いうちに出て行き、顔をおおって地を見るな。わたしがあなたをイスラエルの家のためにしるしとするからだ。」**
7 節、私はこれが大好きです。
ーエゼキエル　12:7ー
そこで、私は命じられたとおりにした。…
ああ、私たちが命じられたとおりにしたと言われるようになることを、神に願います。
「私たちは、主が命じられたことをすべて実行しました。」と。
ーエゼキエル　12:7ー
そこで、私は命じられたとおりにした。自分の荷物を捕囚のときの荷物のようにして昼のうちに持ち出し、夕方、自分の手で壁に穴を開け、彼らの見ている前で、暗いうちに荷物を背負って出て行った。
ーエゼキエル　12:8ー
翌朝、私に次のような主のことばがあった。
ーエゼキエル　12:9ー
「人の子よ。反逆の家、イスラエルの家は、あなたに『何をしているのか』と尋ねなかったか。
それは、本当に彼らが尋ねていることではありません。彼らは、何をしているのかわかっています。
本当の質問は、「なぜ、こんなことをするのか？」聞いてくれて嬉しいです。10 節です。こう答えます。
神が私たちに質問に対する答えを与えて下さる時が大好きです。
ーエゼキエル　12:10ー
彼らに言え。『神である主はこう言われる。この宣告は、エルサレムの君主（ゼデキヤ）**、およびそこにいるイスラエルの全家に関わるものである。』**

ーエゼキエル　１２:１１ー
また言え。『私は、あなたがたへのしるしである。私がしたようなことが彼らにもなされる。彼らは捕囚となって引いて行かれる。
ーエゼキエル　１２:１２ー
彼らのうちにいる君主は、暗いうちに荷物を背負って出て行く。出て行けるように壁に穴が開けられる。彼は顔をおおう。自分の目でその地を見ることはもうないからである。』
ーエゼキエル　１２:１３ー
わたしはまた、彼の上にわたしの網をかけ、彼はわたしの罠にかかる。わたしは彼（ゼデキヤ）をカルデア人の地、バビロンへ連れて行く。しかし、彼はその地を見ずに、そこで死ぬ。
これを覚えていますか？　これはエレミヤ３９章だったと思います。なんだか、パズルのようなものでした。なぜなら、ゼデキヤが死ぬであろうバビロンで、しかも彼がその場所を見ないとは、どうやって連れて行くのでしょう？　これがその理由です。ゼデキヤは逃げようとしたものの、捕虜にされます。そして、バビロン人は彼の息子たちを殺し、それから彼の目を取り出します。だから、彼が最後に見たものは息子たちの残酷な死でした。彼らはゼデキヤを盲目にし、バビロンに捕虜として連れて行き、そこで死ぬことになります。それが方法です。だから、エゼキエルが劇的に描き、示し、実証しているこのすべては、預言であり、彼らがこう質問をするように、彼らの注意を引くための視覚的な預言でした。「何をしているんだ？」「なぜ、そんなことをしているんだ？」「なぜなら、これがエルサレムに対して起きることだからです。エルサレムに残っている人たちについて、これらの偽預言者たちが話していることに反して。彼らは捕囚されます。これが彼らに起きることです。こんなことが起こるんだと納得してもらうために、例示しています。」というのも、彼らはエルサレムに残っている人々が捕囚されることはないと信じ、欺かれていたからです。実は、バビロンに捕囚されないだけでなく、バビロンからエルサレムに帰還するつもりでした。なので、彼らの一日を少し台無しにしてしまったと言えるかもしれません。だから、この視覚的な実演の理由はこれだと、エゼキエルは伝えています。しかし…１６節。ここで神の恵みです。
ーエゼキエル　１２:１６ー
わたしは彼らの中のわずかな者を、剣や飢饉や疫病から免れさせる。…
この３つを覚えていますか？　これも別の視覚的預言でした。
…こうして彼らは、行く先の国々の中で、自分たちのした忌み嫌うべきわざをことごとく語り告げるようになる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。」
このように、２つの視覚的な預言のうち、最初の預言は、次の節にある２つ目の預言から始まりますが、神は必ず残りの者を持っておられることに注目してください。神はそのうちの何人かを惜しんでおられます。ここにその理由が語られています。
「彼らは、行く先の国々の中で、自分たちのした忌み嫌うべきわざをことごとく語り告げるようになる。」「わたしが剣や飢饉や疫病から逃れさせる残りの者たちは、神の民が犯したすべての忌み嫌われることを告げるだろう。」…そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。」
手短に一つ考えをお話しします。それから先に進みます。神は、神が惜しんでいることを忠実に実行する残りの者として、誰がいるのかをあらかじめ知っておられます。神は予知しておられ、私たちを知っておられます。私たちの心を知っておられます。主が残されたこの数人を、主は知っておられ…　主は、主が惜しまれたことを忠実に実行しないとわかっている人を、惜しまれることはないからです。そうすると、

私たちの不服従の当事者になってしまうからです。それは不可能であり、神のご性質と矛盾します。理解していただけたでしょうか？　というのも、これは非常に大きなことですよね？　神は初めから終わりをご存じです。主は、私たちが忠実に実行し、主が命じられた命令に忠実に従うとわかっているものを、私たちに託してくださいます。だから、この数少ない人たち、つまり残りの者たちが、自分たちの忌まわしい行いをすべて告げるのに忠実であることを、主は知っておられました。17 節。これは 2 つ目の視覚的な預言です。

ーエゼキエル　12:17ー

次のような主のことばが私にあった。

ーエゼキエル　12:18ー

「人の子よ。震えながらあなたのパンを食べ、おののきながら、恐る恐るあなたの水を飲め。

ーエゼキエル　12:19ー

この国の人々に言え。『神である主は、イスラエルの地にいるエルサレムの住民について、こう言われる。彼らは、（まだ捕囚されていない、エルサレムにいる民のことです）**自分たちのパンを恐る恐る食べ、自分たちの水をおびえながら飲むようになる。こうしてその地は、そこに住むすべての者の暴虐のゆえに痩せ衰える。**

神に与えられた想像力を使い、私と一緒に考えてみてください。実際に手が震えて震えて、コップの水を飲み干すことができないなんて、どれだけ恐怖に満ち溢れているのでしょうか。それが恐れです。恐れです。そして今、エゼキエルはこのことを実演し、劇的に表現しています。これが彼らの身に降りかかることだからです。かなり強烈です。この表現を聞いたことがあるでしょう、間違いなくあなたも私も、自分で言ったことがあるはずです。「百聞は一見に如かず」これは千の言葉に値する力強い描写です。

ーエゼキエル　12:20ー

人の住んでいた町々が廃墟となり、その地が荒れ果てるそのとき、（再び出てきます）**あなたがたは、わたしが主であることを知る。』」**

これは、2 つの視覚的な預言のうちの 2 つ目のものです。これから、神は預言者エゼキエルを通して、嘲る者たちに答え、また黙らせるという、非常に魅力的な角を曲がることになります。なぜなら、またしても彼らの反応は？　悔い改めず、嘲り、嘲笑する。ここでエゼキエルは、神が命じられたことをすべて行いました。つまり、かわいそうなのは、この一連の出来事を実演するために自分の家から掘った穴を補修しなければならないことです。彼らが好奇心から、エゼキエルに「なぜこんなことをするのか」と聞いてくれることを期待して。「何が言いたいのか？」と。「ああ、これが私の言いたいことです。私が行っているのは、エルサレムに残っている人たちに何が起こるかの預言です。その多くは、私たちが愛し、知っている人たち、家族、愛する人たちがエルサレムに残っていて、エルサレムで再会できると考えている人たちです。いいえ、彼らはここバビロンであなたと再会するのです。それが、これの目的です。そこがポイントです。」

さて、あなたは、彼らが顔を伏せ、謙虚になって、神に叫ぶと思うでしょう。「ああ、神よ、私たちを憐れんでください」いや、また真逆なんです、悲しいことに。21 節から始まるのですが、これがまた、非常に面白い方法です。

ーエゼキエル　12:21ー

次のような主のことばが私にあった。

ーエゼキエル　12:22ー

「人の子よ。あなたがたがイスラエルの地について、『日は延ばされ、すべての幻は消え失せる』と言っている、あのことわざは何なのか。

これが見えますか…これもまた、…さらに必要ありませんが、神は素晴らしく、完璧なお方であることを証明するものはすでにたくさんありますが、なぜなら、神は完璧で、ユーモアのセンスがあられるからです。このことをどのように表現されたかわかりますか？　少しだけ…　少しだけいいでしょうか？

「エゼキエル、来なさい。ここに来なさい。人の子よ。このことわざはどういうことか？　この嘲り、嘲笑は？　エゼキエル、わたしが誰のことを言っているのか分かりますか？」

「いいえ、神さま、記憶を呼び戻してください。」「記憶を呼び覚ましましょう。こんなことを言う人です。『日は延ばされている。あらゆる予測、あらゆる日付設定者は失敗している』わたしが言っているのは、この人のことです、エゼキエルよ。」もし私がエゼキエルだったら、「ああ、あの人だ。ええ、あなたが仰ることはまさに知っています。ええ、それは非常に有名なことわざです。この辺りではよく言われる言葉です。」

「そうです、エゼキエルよ、あれはどういうことですか？　このことわざは何ですか？」

これは 1 つ目の嘲りです。神が最終決定権をお持ちです。ほら、現代ではこうやって梱包し直されているからです。

「ああ、どれだけの人が主が帰ってくると思っていたのに、帰ってこなかったのだろう。今まで通りに、物事が進むだけ。これらの幻は失敗した。」

幻は消える／予測が外れる「ああ、2000 年だったと思っていたのに…！」2012 年でしたっけ？　いえ、それは…忘れてください。本当に考えて欲しくありません。残りの聖書の学びで、あなたの気が散ってしまうからです。これらの日付設定者は、「主は 5 月 22 日に戻って来られる！」キャンピングが彼の名前でした。覚えていますか？　覚えないでください。そして、失敗しました。実現しなかったのです。それは、失敗した幻でした。失敗した予測です。それで、どうなるんですか？　ああ、彼らにとっては、この上ない武器になるんです。

「まさか！　主は戻って来られない。前にも聞いたことがあるよ。それは起こらない。私たちが生きている間には起こらない。どの世代も、自分たちが生きている間にと思っていたんだ。」

彼らの嘲りの中での結論はこうです。予測/幻は実現しなかった。したがって、それは決して起こらないだろう。いいでしょう。

ーエゼキエル　12:23ー

それゆえ、彼らに言え。『神である主はこう言われる。わたしは、あのことわざをなくす。…

う～、見てもいいですか？

…イスラエルでは、もうそのように言わなくなる。』かえって、彼らにこう告げよ。『その日は近づき、幻のすべては実現する』と。

ーエゼキエル　12:24ー

もう、むなしい幻も、へつらいの占いも、ことごとくイスラエルの家からなくなるからだ。…

必要ありません。なぜ必要ないのか分かりますか？　なぜなら、神は失敗や誤った予測の嘲りに答えようとしておられるからです。神は彼らを 1 度で完全に休ませ、ベッドに寝かせ、1 度で完全に沈黙させられます。どうやって？　それらを成就させることによって。それで大丈夫です。もう、そんなことは言

えません。それが起こったからです。「そんなこと起こらない」とは言えません。それは起こりました！ええ、あなたは私を沈黙させました。それが神が言っておられることです。神がご自分を誇り、ご自分を自慢されるのが大好きです。それはこんな感じです。また、これを説明するのは愚かなことですが、聖別された愚かさであることをお許しください。モラ、それが私の言い分で、拘りです。ー（笑）ー
私はこんな風に見て、頭の中でイメージするんです。神はこう言っておられるようです。
「エゼキエルよ、このことわざを知っているか？　彼らがそう言うのを止めさせます。その方法を知りたいか？」「ええ、神さま、どうやってなさるのですか？」「わたしはただ、それを行うだけです。なぜなら、彼らはわたしが行わないことを嘲っているからです。彼らがわたしがそれを行わないことを嘲ることを止める方法を知っています。わたしが行えば、彼らはわたしが行わないと嘲ることは出来ないでしょう。わたしが行ったからです。」
言い過ぎたかな？　そうは思いませんが。もしそうなら、賜物なんです。
ーエゼキエル　12:25ー
それは、主であるわたしが…（これが大好きです）**…わたしが語り、わたしが語ったことを実現し、決して引き延ばさないからだ。反逆の家よ。あなたがたが生きているうちに、わたしは言ったことを実現させる――神である主のことば。」**
訳すと、「神がそう言われたら、それで決まり」「おお、なんと言いましたか？　待って、聞こえなかったよ。はっきり言ってください。」いや、そう思ったんです。そう思っていました。
ーエゼキエル　12:26ー
次のような主のことばが…
楽しみすぎでしょうか？　ー(笑)ー
ーエゼキエル　12:26ー
次のような主のことばが私にあった。
ーエゼキエル　12:27ー
「人の子よ。今、イスラエルの家は言っている。『彼が見ている幻はずっと後のことについてであり、はるか遠い将来について預言しているのだ。』
「将来のことだ。私たちにはまだ何百年もある。」
ーエゼキエル　12:28ー
それゆえ、彼らに言え。…（おっと、またです）**『神である主はこう言われる。わたしのすべてのことば、わたしが語ることは、もはや引き延ばされることはなく、…**
どうでしょう？　どうでしょうは原文にはありませんが。
…必ず成就する――神である主のことば。』」
ああ、こういう風に終わる章が好きです。よし、これが 2 つ目ですね？　神は嘲る者がこう言うのを黙らせられます。「これがもう一つ、彼らが言っていることで、エゼキエル、来なさい。もう一つあります。」「そうなのですか？」「そうです。あなたはこれも知っているでしょう。「私が？」「そうです。それは、こう言うものです、　『ああ、急がず、心配しない。』『主人の帰りは遅れている。パーティーしよう！』」マタイ福音書 24 章です。私には、聖書のすべてのページの中で、おそらく最も力強いたとえ話の一つであると思います。2 人のしもべがいて、対比されています。主人はこの 2 人のしもべに言います。
「わたしは出て行きますが、また戻って来ます。そして、私が戻ってきたときに、私が召したことを忠実

に実行しているあなた方を見出したいのです。」正しいしもべは、「よし、始めよう。」彼は忠実です。主人は思いがけない時に帰ってきます。忠実なしもべは、「よくやった、良い、忠実なしもべよ。」悪いしもべは、正確には違いますが、彼は歯ぎしりし、外の暗闇に投げ込まれます。なぜでしょう？　なぜなら、主人が帰ってくると、仲間の召使いを殴っていて、彼は酔っぱらいと一緒に飲み、 大食いの人たちと一緒に食事をしていました。明日をも知れぬ勢いでパーティーをしていました。つまり彼は...「急ぐことはない。」なぜそんなことをしたのか？　なぜなら、彼は自分自身にこう言ったからで…これが、こんにちの私たちを語る上で、最も力強く、最も適切なたとえ話の一つである理由だと思います。彼の問題は、彼の危険性は、自分自身にこう言ったことです。
「いや、主人の帰りは遅れるだろう。主人はそんなに早く帰って来ない。ずっと先のことだ。急がなくていい、心配しなくていい。」
そして、主人が来るとは思ってもいなかった時に、主人が来ます。そのせいで、彼は自分の運命を決めてしまったのです。さて、私はどこに向かってるのでしょうか？　まあ、私が何を言いたいのか、もうお分かりだと思いますが。こんにち、どれだけの人がこう言っているのでしょうか。同じことを別の言い方で言っています。「いや、いや、私たちには何年もある。」実は来週、、、来週は、エゼキエル 13 章ですね？そうだと思います。来週のタイトルは、…来週の聖書の学びを今夜は教えませんので、ご心配なく。タイトルはこうなります。「魅惑的な嘘、破壊的な人生」言葉遊びになっていますが、これらの偽預言者たちは、人々に嘘を言い、嘘をついていて、人々にこう言います。
「いや、何も心配することはありません。時間はたっぷりあります。心配いらない、急がなくていい。」とても良い比較対象があります、多分、類似という言葉がぴったりでしょうか、もっといい言葉がないのですが。ある解説者が、サタンとその悪霊たちとの緊急会談という架空の絵を描きました。彼らは闇の王国から神の御国への道を失っていたからです。人々が救われていたので、彼らは再編成し、戦略を練り、より多くの魂を呪うための良い方法を考え出す必要がありました。彼らは魂を失っていたからです。魂が勝ち取られていたからです。酷い表現ですが、皆さん理解できたと思います。そこで、架空の会議を開きます。その様子を思い浮かべてください。サタンは緊急会議を招集します。　「どうするんだ？」ある悪霊が言います。「私に考えがあります。天国はないと彼らに言いましょう。」サタンは、「ああ、それはダメだ。少しは効果があるかもしれないが、それでは本当に効果があるとは思えない。」すると、別の悪霊が口を開いて言います。
「よし、わかりました。天国がないとは言わずに、地獄がないと言いましょう。」そうすると、なんだか気が楽になりますよね。サタンは、「ああ、でも、ダメだ。それも本当に役には立たない」と言います。そして、最後に別の悪霊が、「いや、分かったぞ」と言います。「天国や地獄がないというのではなく、ただ、『急がなくていい』と言いましょう。」サタンは、「それだ。行って来い。」「急がなくていい。緊急性はない。」私がビジネスをしていた頃、こんな言葉がありました。エゼキエルの時代のことわざとは違いますが、こんな感じでした。「そこに『今』を入れる必要がある」もう一度言います。その中に「今」を入れる必要があります。だってほら、「今」が無ければ...このような比較をするのは申し訳ないのですが、情報番組をご存じでしょうか。彼らは 「今」を入れます。なんと、「今」を入れているんですね。わあ、すごい。「”今”ご注文いただくと、もう 1 つ追加でお届けします！追加料金なし！　ただ、送料と手数料だけ。」
それが「今」を入れるということです。このような比較をお許しください。しかし、それが問題なのでは

ないでしょうか？「今」がないのです。「今」が取り除かれ、マタイ 24 章の不正なしもべのようになってしまうのです。「いや、今じゃない。今じゃない。」いや、でも、今なんです！「今」を戻すと、それがすべてを変えます。だって、もし今であるなら、わお…！私は真剣になった方がいい。今でなければ、逆にひっくり返してみましょう。では、もし今でなければ、じゃぁ、何でしょう？
「その時がきたら、教えてください。でも、もし今じゃないなら、何が問題でしょう？　今じゃないのに、なぜ私を煩わせるんですか？　今、対応する必要があるのでしょうか？」「いや、時間はあります。」「オッケイ、よし。」いや、でも、私たちは今知る必要があります。「今？」ええ、今です。じゃあ、パーティは今、終わりです。というのも、今だから。確実にやり過ぎましたね。でも、ここで私が伝えたいことは理解してもらえたと思います。彼らの嘲りは、「いや、今はそんなこと起こらない。それは延期されてきた。」少し時間をかけてしまっていますが、私は、新欽定訳者は「延期」よりもっといい言葉で訳せなかったのかと考えています。世俗的な感じがしますよね。「会議は延期となりました」神の裁き、主の来臨は、「まあ、延期になったし」というレベルではなく、もっと強力なものに上がると思いませんか？「おお、そうですか。じゃぁいつ？」　「まぁ、今じゃないんだ。」「そうですか、では、今でなければ、カレンダーから外しておきます。」ですから、「延期」は、私はこの言葉は好きじゃありません。今言ったことから分かりましたか？　ちょっと強めの言葉を使ってもいいですか？「遅れる」という言葉を使ってもいいでしょうか？　遅れています。主人は来るのを遅らせています。では、何を急いでいるのでしょうか？　緊急性は？　主は来るのを遅らせておられます。主は、「実は延期されていない」と言っておられます。「もはや、これ以上延期することはありません。実際には、それは延期されたのではなく今です。今です。どうやって？今なのですか？
「すぐに分かります。わたしがそれを実行するからです。後でもない、遠くでもない、この先でもなく、何世代も先でもありません。いえ、今、わたしはそれを行います。だから、もう延期されることはありません。それは、再スケジュールされています。」「いつに再スケジュールされたんですか？」今です。
「おお、でも私が思っていたのは…」いいえ、延期はされません。今に再スケジュールされました。私は、「今」止めた方がいいですか？　というのも、私がたどり着きたいのは、私たちの時代には、嘲る者、嘲笑する者があふれていることです。それは使徒ペテロがその第二の手紙 3 章で預言しているように、終わりの時代の預言的なしるしです。私たちは第一、第二ペテロの手紙の学びを終えたところです。(3 章) 3 節から 4 節を読みたいと思います。今読んだエゼキエル書の内容とほぼ同じかどうか教えてください。聖霊によってペテロが書いています。

ーⅡペテロ　3:3ー

まず第一に、心得ておきなさい。終わりの時に、嘲る者たちが現れて嘲り、自分たちの欲望に従いながら、

ーⅡペテロ　3:4ー

こう言います。「彼の来臨の約束はどこにあるのか。父たちが眠りについた後も、すべてが創造のはじめからのままではないか。」

「今までも起こらなかった。これからも起こらない。それが実現するとしても、今すぐではない。当時は誰もがそう思っていた。当時は起きなかった。今だってそうだ。すべてはいつも通り。」彼らはエゼキエルの時代のユダに語っているのでしょうか？　そう聞こえますね。さて、これが私がたどり着きたかった場所です。そのために景色の良いルートにしましたが、たどり着きました。景色の良いルートは楽しめましたか？　それでは。質問です。このような嘲る者、嘲笑する者に対して、どう答えたらいいのでしょ

うか。箴言 26 章 4 節から 5 節です。
ー箴言　26: 4 ー
愚かな者には、その愚かさに合わせて答えるな。あなたも彼と同じようにならないためだ。
5 節。注目してください。
ー箴言　26:5ー
愚かな者には、その愚かさに合わせて答えよ。そうすれば彼は、自分を知恵のある者と思わないだろう。
待ってください、何て？？　4 節「愚かな者には、その愚かさに合わせて答えるな」5 節「愚かな者には、その愚かさに合わせて答えよ」「待ってください、どっちですか？」答え：はい「説明してください。」説明します。さて、この 2 つの節は、一見すると矛盾しているように見えます。しかし、よくよく考えてみると、実はこの 2 つは互いに補い合っています。こういうことです。聞いてください。5 節では、愚かな者には答えるなとは書いていません。ただ、愚か者のようになるような答え方をしてはいけないと書いてあります。つまり、愚かな者が嘲るなら、自分も彼らと同じように愚かな者にならないように、彼らのレベルにまで身を下げて、愚かな嘲りをするなということです。言い換えると、同じように答えてはいけないということです。彼らのように答えてはいけません。さもないと、あなたも彼らのように愚か者になります。答えてはいけないということではなく、ただ、そのような答え方をしてはいけないということです。それが 4 節に書かれています。さて、これが 5 節に合流します。最も良いのは何もしないこと、何も言わないことである場合があります。理由はこうです。なぜなら、何をするにも、何を言うにも、愚かにも彼らのレベルに身を落とすことが必要だからです。私は送らなかったメールを後悔したことはありません。また逆に、送信を押してしまったメールを後悔したことが何度あったことか、「送信取り消し」というボタンがあればいいのにと思いました。「送るべきじゃなかった！　痛いマウイ！（ダジャレです）これはひどい。」何も言わないのが最善の場合があります。このような時にこそ、「見極め」が必要です。少しお話します。状況を見極める必要があるため、識別力が何よりも重要です。「私はこの愚か者に答えることができるだろうか？」それが箴言です。私はただここで、聖句を引用しています。いいですね？　この音が…言うと気分が良いんですよね。自分自身に問いかけなければなりません。「愚か者…！」はい、これで最後です。これで一段落した、と思います。だから、私はこの問を自分に問わねばなりません。自分が愚か者にならずに、この愚か者に答えることができるだろうか。もしできないなら、挑戦しないほうがいい。何も言わないでください。しかし、今度は 5 節があります。だって、何も言わなかったら、その人は、「ほらね！」と思うでしょう。「やったね。ははは！」自分の目には賢く映ります。まあ、それは困ります。答えないといけません。何か言わなきゃいけません。では、5 節です。ちなみに、リラックスしてください。なぜそんなにムキになっているんですか？　そこで登場するのが、「見極め」です。「知恵」が必要になります。知恵です。5 節。「愚かな者に答えなさい」「嘲る愚か者に答えなさい。彼らが自分の目に賢く映らないように。」
ちょっと待ってください。どうしたらいいんでしょうか？　これはかなりのジレンマです。私はあえて難問という言葉を使いません。というのも、2 週間ほど前に、この言葉を完全に失敗してしまい、その失敗を指摘されたからです。まだ、そのことを引きずっています。発音と語尾に自信があり、"condundrum"と言っていたんです。それは言葉ですらありません。言葉にしようとしたんですが、うまくいきませんでした。conundrum/難問です。ジレンマです。それは、あなたが解決し、和解する必要がある、不可解な問題です。これもその 1 つです。しかし、そのジレンマは、私たちの答えが愚かか賢明かの対比で解決

されます。お付き合いください。私たちは、嘲る愚か者に賢い言葉で答えることができます。神は、嘲る者が答えを必要としているのか、議論を必要としているのかを見分ける知恵を与えてくださいます。私がそう言う理由は、ただ戦いたいだけの人もいるからです。彼らは答えを求めているのではありません。議論を求めています。実際、彼らはそれで成功しています。誰かと喧嘩をしない限り、彼らは良い一日を過ごすことができません。私が何を言っているのか、おわかりですよね？　議論好きで争い好きな人たちなので、論争したいのです。彼らはそれを利用して、アドレナリンを出しています。反論した時のアドレナリンに中毒になっています。ちなみに、それをアドレナリンと言います。また、聖書では、怒りや議論をすることを、罪と呼んでいます。一応、念のため。

「怒っても、罪を犯してはいけません」（エペソ　4:26）

まあ、アドレナリンが出ますよね。その時、アドレナリンが分泌されるのを感じますか？　お”〜〜おお、よし…！！　そういうことです。あれ、何か琴線に触れましたか？　もちろん、私自身のことではありませんよ。それはあなたと聖霊にお任せします。それを見極めなければなりません。神はその見極めを与えてくださいます。その見極めができるように、上からの知恵を与えてくださいます。

「ちょっと待てよ。この人は、ただ議論が必要なのだろうか？　彼はその日のための議論を必要としている。いや、私は抜けます。」行けません、出来ません。しかし、彼が自分の目に賢く映らないように答えを必要とするならば、この愚か者に答えることが私の責務です。そう、だから、もし彼らが議論だけを必要とするならば、最適な答えは、何も答えないことです。もし彼らが答えを必要としているならば、最高の答えは、神の御言葉からのことばです。ああ、神の御言葉に間違いはありません。聖句で相手の頭を叩くという話ではありません。それが逆効果になることもあります。結局、避けようとするものを作り出してしまうことになります。あなたの言葉は、優しさで溢れさせてください。何を言うかではなく、どう言うかが大切です。では最後に、私が個人的に行っていることを紹介したいと思います。ここで気をつけなければなりません。自分は到達したかのように。ああ、到達したいものです。これは私にとっては大きな問題です。うまくいかないことの方が多いんです。言い換えた方がいいかもしれませんね。締めくくりたいと思いますが、主は…止めにしますね。それすらもボツにしました。これは私にとっては難しいことです、 告白しなければなりません。この点について、主は私に働きかけてくださっています。このほうがいいです。私はそっちにこだわります。まず、いつもこうしていたら良かったのですが、私はこうします。すぐに祈ります。それは簡単な祈りです。「ああ、神さま、神さま…！　どうか、助けてください。私には知恵が必要で、見極めが必要です。私は、あなたが私に与えてくださる言葉を、私が話すべき瞬間に、話すべき方法を必要としています。」神があなたに応えられ、それをなさってくださった時、どうなるか知っていますか？　特に、福音を伝える際に顕著に現れます。聖霊が支配され、あなたは聖霊に任せます。聖霊を悲しませないでください。聖霊があなたを通して語ってくださいます。それが聖霊だと分かります。自分の言葉ではないからですそれは本当に素晴らしく、「おお、これは本当に良い！」と。録音しておきたかったくらいです。それは自分ではなく、聖霊であり、ただ流れるように、聖霊があなたを通してその人に、その人が聞くべきことを正確に語っていることがわかるのです。それはここでも同じことです。ただ神に求めます。

「分かりました、神さま。私にことばを与えてください。あなたが私の道に連れて来られたこの愚か者に私が答えるとき、あなたの御言葉を、愛を持って語らせてください。」さて、もし聖霊に促されるなら、促される時、ここが重要なのですが、大きな「もし」です。なぜなら、あなたは待たなければならないか

らです。この件に関して、聖霊より先走らないように。聖霊があなたを促してくださいます。それは促し、導きであり、聖霊があなたに、それに答えるためにふさわしい神の御言葉を与えられることによって証明されるでしょう。それはこんな風に見えて、こんな風に聞こえるかもしれません。聖句の一節ですが、あなたは知っていたけど、長い間忘れていたものです。デボーションの時間にも読んだことがありません。そして、突然、どこからともなく、聖霊がそれをあなたの記憶に蘇らせます。「これを語りなさい。」あなたはそれを語ります。それが聖霊です。それが彼らへの答え方です。自分の言葉で相手に答えません。というのも、それは…「戦いの準備だ！」ー（笑）ー
しかし、それが神の御言葉の場合…
なぜなら、神の御言葉はどんな両刃の剣よりも鋭いからです。（ヘブル　4:12）
外科的に切り込み、切り取るのです。それが神の御言葉であり、言うなれば、心に切り込んできます。あなたの言葉は地に落ちます。
神の御言葉は、虚しく帰って来ません。（イザヤ　55:11）
影響を及ぼします。これは神の御言葉を引用できる場であることをご存じでしょうか。話している最中にも、「さて、なぜこの箇所なんだ？」と思うことがあります。後になって、「どうしてわかったんだ？」と言われます。「私のメールを読んだのですか？　誰かがあなたに電話したのですか？　私はまさに、その言葉を聞く必要があったんです。」これはやめてくださいね。「ええ、知っていたよ。」いいえ、知りませんでした。聖霊が心を知っておられ、心に何を語るのかを正確に知っておられます。あなたはただ、代弁者です。あなたは、主が語られる器に過ぎません。これにはまた別の側面があります。それを裏返しましょう。もう終わります。もし、聖霊が私を立ち止らせるなら、もしくは立ち止らせる時、あなたは自分の霊のチェックに、本当に過敏になる必要があります。絶対に、絶対に、逆らわないでください。聖霊を覆い隠さないでください。聖霊はあなたをチェックし、このように、立ち止らせてくださいます。
「いや、引き下がりなさい。下がりなさい。前に推し進めてはいけない。進めてはいけない。これをわたしに任せなさい。」聖霊がそうなさる時、こんな感じです。あなたの霊と聖霊で、自分と聖霊の間でこれは良いことだと、この証があることでしょう。「これがあなたの歩む道です」と。そして時には、ありがたいことに、聖霊は愚か者がその過ちを犯すことができないほど明確にしてくださいます。時には、「今は何も言わないのが一番いい」という明確な具体性が必要なこともあります。今、あなたは会話の中にいて、あえて言えば、議論をしていて、もしあなたが…というのは、あなたは相手の話を聞いていないからです。次に何を言うか考えているんです。頼みますよ、そうじゃないですか？　つまり、失敗し、捕まるまで、「へぇ、ああ、そうですか」と適切な場所に挿入するんです。あなたは礼儀として、「ええ、へぇ～」と。でも本当は聞いていません。あなたはただ考え、反応や反論を練り、先回りして相手を非難するタイミングを待っています。それはしないでください。私はします。それを証明する傷跡があります。そんなことしなければ良かったのに。あなたはただ引き下がり、耳を傾け、待つのです。時にはこんなこともあります。結局彼らが、あなたのために、あなたの代わりに言ってくれるのです。それが聖霊です。
主がそうなさるのが大好きです。なぜならもし、あなたが、ただ…こんなこと言いたくないけど、真実です。あなたは彼らにただ、首を吊るのに十分な縄を与えただけです。あなたは縄を手に取らずに、ただ、「そうですか、どうぞ、どうぞ」と言うだけです。私がいなくても、かなりいい仕事をしているようです。だから、どうぞ。その穴の中でひたすら独り言を言ってください。いい仕事してますね。彼らは結局、あなたの主張をあなたのためにすることになるのですが、願わくば、彼らがそれに気づき、正気に戻り、あ

なたが彼らを打ち負かすことができればと思います。あなたは彼らを制したのです。しかし、そのためにはやはり、識別力、霊的な見識と上からの知恵が必要です。ですから、次に誰かが嘲る時、ところで、酷くなってきています。ペテロが言っていたように、悪化してきています。ああ、なんということでしょう、言ってもいいのですが、言いません。お話しすることが出来れば…　悪質になってきています。下品になってきています。どんどん汚れて来ています。ただ、本当に心が痛みます。私たちスタッフが受けているすべての嘲りについて言うと、ご想像の通り、膨大な量なので、私たちはただ反応しません。反応しないんです。すみませんが、それは彼らを怒らせます。こんな感じで…　分かりました、一つだけ。一つだけお話ししましょう。良いですか？　遅すぎますね。もうすでに話しています。これも最近の話です。
「これは３度目のメールだ！あなたたちはまだ返事をしないのか！」私たちはそこで止めます。その後に続くのは小説（長文）であることがほとんどなので、読みません。ああ、どうやら私たちが反応しないことで、あなたに伝わっているようですね。ふむ…　これは聖いものですか？　そうだと言いましょう。カポノ上がって来て下さい。お立ちください。祈りと歌で締めくくりましょう。
主よ、私は最善を尽くしました。嘲りや嘲笑となると、もっと続けられるのですが。ああ、主よ、私たちが議論や戦い、喧嘩、言い争いに巻き込まれることのないようにしてください。
主よ、私たちに知恵と識別力を与え、あなたの知恵、上からの知恵で、愚か者に、賢く答えられるようにしてください。主よ、この章に感謝します。良いことです、良いことです。この『エゼキエル書』の記録の中に入れてくださってありがとうございます。主よ、エゼキエルに感謝します。私たちは彼から多くのことを学び、彼に夢中になっています。この書の中で彼を知っていく中で、なんと尊い青年なのでしょう。主よ、彼と、彼から私たちが学ぶことを望んでおられる多くのことに感謝します。感謝します。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ
http://www.calvarychapelkaneohe.com/
Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii　　筆記 hukuinn7